

令和2年度 第2回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：令和2年11月17日（火） 10時00分～11時15分

場 所：市役所第1庁舎4階第1委員会室

出 席：審議会委員 都甲康至会長、久池井良人副会長、森部忠彦委員、松田信一郎委員、
平川由記子委員、山本節子委員、山田周作委員、谷口治委員、山下善行委員
事務局 青谷昇教育部長、柴田博樹文化課長、
井英明文化振興係長、文化振興係業務主査新本美彩

欠 席：なし

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジюме
- ② 【資料1】 前回協議内容確認
- ③ 【資料2】 総括に向けての確認事項シート
- ④ 【資料3】 前回協議内容を踏まえた今後の予定

1 開会のことば

2 教育部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 協議事項

古賀市文化芸術振興計画の総括について

都甲会長：それでは協議事項の「古賀市文化芸術振興計画の総括について」事務局より説明をお願いいたします。

事務局：それでは協議事項「古賀市文化芸術振興計画の総括について」お手元の資料をもとに説明させていただきます。前回の審議会では、「古賀市文化芸術振興計画」そのものと、計画の総括に向けた内容及びスケジュールについて、説明させていただき、皆様からご意見を頂戴したところです。前回いただいたご意見については「【資料1】 前回協議内容確認」にてまとめさせていただいています。ご意見として、やはり新型コロナウイルスの影響が主だったものでございました。新型コロナウイルスによる文化活動への制限や高齢者や子どもへの影響、そしてそのような条件下でも様々な工夫を凝らして活動されている団体がある等のお話などをいただきました。このようなご意見を基に、今回事務局から提案をさせていただきます。資料の下部そのままですが読ませていただきます。「今年のコロナの影響は大きく、市事業もそうだが、文化団体、個人、学生と多くの方が、練習や発表の場を奪われていることを改めて実感した。今回の総括の中でコロナへの対応は記録し、総括に取り入れ、次期計画に生かすべきと考えている。ついては次年度にコロナの1年を振り返って、またコロナ以外においても「古賀市の文化活動について等に係る団体アンケートを実施し、その結果を踏まえた上で審議会の中でご自身が所属しておられる団体を含めて、文化団体のご意見をうかがうこととしてはいかがか。また団体であると同時に一市民としてのご意見も併せてうかがうこととしてはいかがか。」こちらの提案について、後程ご審議いただきますようお願いしま

す。資料の説明を続けます。次に「【資料2】総括に向けての確認事項シート」をご覧ください。こちらは計画の総括に向けてのイメージを確認するためのシートとなります。資料上部に記載しておりますが、計画の総括とはどういう作業かと言いますと、古賀市文化芸術振興計画にうたう内容の中、何が達成できて、何が達成できなかったのかを明らかにすることでこの10年計画においてできなかったところや前期計画の継続すべきところ、より深く進めるべきところを発見し、次期計画につなげていくための作業となります。そこで資料のシートですが、本計画では市民、団体、行政がそれぞれの役割を担う構成となっていることから、最終的な総括では、3者の役割をどれだけ達成できたのかの確認が必須になると考えております。そのために令和4年頃に総括の予定で進めておりますが、表の右から2番目「達成できたこと」、3番目「達成できなかったこと」の欄を埋めていく形となります。その後、達成できたが継続する、深く掘り下げる、また達成できなかったので、次期計画への課題とするなどのご審議をいただき、これが総括になると考えております。では、達成できたかできなかったかを判断する資料は何かということで、右の欄「達成できたかどうかの検討資料」となります。その内「今あるもの」については、これまで審議会でもお出ししてきた資料で、事務局が所持しているものです。今日は一番右の欄「今後必要と考えるもの」について、皆様が達成度を審議するにあたり、このような資料があればいいのではないかと、などのご提案をいただければと考えております。例えば、前回の会議の中で「団体の聞き取り」という案を頂戴しておりますので、現在団体の欄に記入しております。併せて先ほど事務局から団体アンケートを提案しましたが、こちらを承認いただけた場合はこちらも入ってくる形です。行政の場合は毎年お出ししている「文化事業調査」以外で何かございましたらご提案いただければと思います。一方、市民の欄についてですが、アクションプランの市民の項目については、現在「文化芸術活動を楽しもう」などの啓発的なものが多いところですが、これをどう達成度を測っていくのか、こちらの方もご意見いただければと考えております。また併せて団体アンケートのご承認を頂けた場合は、アンケートの中でどんなことを尋ねるかについてもご意見をいただければと考えております。最後の「【資料3】前回協議内容を踏まえた今後の予定（案）」については、団体聞き取り等も含めて、前回より詳細な今後の予定となっておりますので、参考までにお目通しください。事務局からは以上です。ご審議のほどよろしく申し上げます。

都甲会長：これ理解されていますでしょうか、今の説明で。まずその前提が大事だと思うのですが。私が理解をしている、例えば今日の会議の位置付けに当たろうかと思うのですが、資料3のところでは今後の点を踏まえたところで、今日が、第2回なので、総括の方法だとか、方針を決めていくような形になるかとか、まずそういうことを理解したらいいかと思っております。それを踏まえて今事務局の説明をいただいた資料2を、まず見ていただいて、縦軸が要するに市民がおこす、団体がおこす、行政がおこすということで、いわゆるこの今進行中のアクションプランですが、この項目に沿っているというそういう位置付けで、今、後期が始まったばかりなのですが、それについて今後総括をする上で、何が必要かというようなところを検討しましょうと、そういう形になっているかと思っております。その中で団体がおこすというところ、資料2のところについて、団体アンケートを実施してはいかかかというような事務局側からの提案というふうに理解していいかと思っておりますけども、まずそこから行きましょうか。真ん中の団体をおこすというところで、そういうアンケート等をやったらいかかかというのが今事務局提案ですので、そのことについてまず審議をしていきたいと思っております。不要という考え方もあろうかと思っておりますけど。まずその辺はいかかなものでしょうか。

山本委員：団体アンケートはとても必要だと思いますが、その団体をどこまでの団体にするのか、というところが検討かと思っております。平成30年に実施されている分は、どこまでの団体をされているのでしょうか。

都甲会長：説明をお願いいたします。

事務局：平成30年度に実施しました団体・学校アンケート調査についてなのですが、こちらは前期の統括のためにとった調査となります。対象としては、計画策定時に実施した団体アンケートのときにお願いした団体にそのまま、要するに最初のアンケートをとって5年経っていかがですか、ということでアンケートをとらせていただいた形でございます。団体数が今、定かではございませんが、10団体前後でお伺いしていたかと思えます。以上です。

都甲会長：山本委員よろしいですか。

山本委員：その10団体というのは、今聞いてもいけないのかもしれませんが、どうやって選ばれた団体なのでしょう。

事務局：30年度については、当初の計画策定時の団体そのままをお願いしたところですが、策定時にどのように選定したかまでは今わかりませんので、また改めて確認して、ご回答させていただきたいと思えます。

山本委員：わかりました。文化課のほうでその団体を今の時点でどれくらい把握されているかというのは、わかりますか。古賀市で文化団体がどれくらいいらっしゃるか、という質問です。

事務局：一応こちらでは文化協会さんに所属していらっしゃる団体という形では把握しておりますが、もちろんそのほかにもいろいろな団体があるとは承知しております。またアンケートの内容によって、こちら全てにとるのか、それとも活動を主にされているところに絞るのか、その辺りもまた、皆様のほうからご意見いただけましたら、助かります。よろしくをお願いいたします。

山本委員：はい、わかりました。

森部委員：今の質問に対してですけれども、できるだけたくさんの団体の皆様のご意見をいただきながら整理をしていく必要があるというふうに考えております。特に、私は文化協会の会員でもありますし、文化協会の団体はほぼ、団体数もそうですが、活動内容もある程度つかめているのですが、実質的にはそのほかの団体がたくさん良い活動をされているところがあるのです。私もその細かい活動は理解しておりませんが、そういったたくさんの団体の人の意見をアンケートとしていただきながら、そして整理をしていく。これは本当の市民の声を生かしたいいわゆる今後の活動に結びついていくのではないかと思います。

都甲会長：ありがとうございます。団体数どのくらいでしたか。100くらいだったのでしょうか。

森部委員：文化協会の団体数でいきますと、今86団体ほど、これは芸能と芸術と合わせた数字でございます。そのほかに例えば歴史関連の団体もたくさんあるようですので、そういった活動の方の意見を尊重して、まとめたほうがいいかなと思えます。

都甲会長：ありがとうございます。

山下委員：平成30年度実施のアンケートで、学校アンケート調査結果というのが12校、それで団体アンケート調査結果は団体として、平成23年度調査団体で7団体、新規調査団体で5団体、という資料をもらっています。

都甲会長：ありがとうございます。

谷口委員：団体調査ということで、当初時と5年経過時と2回はかられていますけれども、その団体で当初どうだったかとか、5年後どうなったとかで。今度また同じ団体はやっぱり配ると、計画を立てたときにどういう影響を与えて、どうなったかっていうのが大事だと。それと皆さん言われていたみたいに、古賀市内でもいろいろな団体があつて、古賀市が把握してない団体でも、非常に地域で演奏活動したりとか、

いろいろな活動されている団体もたくさんいらっしゃる。そういうのも含めて、取られたほうが市の全体としての文化度というのが、上がるのではないかと思います。それともう一つ受け手の、例えば福祉会など、来てもらったときにどういう感想かとか、こういうのがあるけどなど。それも合わせてとったほうが、団体と団体の受け手、それが「市民がおこす」に入るのかもしれませんが、両方を比較するために、両方アンケート、内容はどうかわかりませんが、取ったほうがいいのではないかと感じました。

都甲会長：ありがとうございます。まず団体そのものの数を把握することが大事というのが一つあるかと思えます。それが一つと、それからもう一つ今お聞きした中では、過去取られていた団体と同じ団体を取るといって、経年、その変化が分かるということの理解でよろしいですか。

久池井委員：やはり経年変化ということをとらえるためにはやっぱり平成30年度に取られた調査、そこはやはり大事にしないとイケないと思えます。ただ団体の数もかなりありますので、例えばそれ以後に非常に活動が顕著な団体もあれば、まだそれ以後に活動がそこまでなかったという団体もあろうかと思うのです。だから振り返ってみて、付け加えるところはやっぱりきちんと付け加えるべきかと思えます。それと団体も様々な活動の規模もあると思うのです。だから、どのぐらいから範疇としてとらえるかというのは持っておかないと、アンケートをとるのはいいのです、がなかなかとるのも大変だと思うのです。一堂に会して会議をしている団体ではなくて、それぞれが活動していますので、その部分の選定というところはちょっと念入りにする必要があるかと思えます。それともう一つは、アクションプランや全体の振興計画にもあるのですが、長期計画の中に入っているセンター的機能というのがありました、一元化するところ。なかなか難しいということでこれは長期のほうに入っておりますが、もうこれからは、短期も中期も長期もないのです。というのはもう終わりが見えてきているのです。だから、今回の件で団体について、どういう情報があるかということは、やはり一元的に考えるようなものを構築していかないと、また準備していかないと、とうとう達成出来なかった形が終わるのではないかと思います。そういうことも少し念頭に入れながらの、今回は調査ではないかと思えます。

都甲会長：ありがとうございます。

平川委員：私団体数のことですごく詳しくないもので、疑問に思ったのですが、文化協会にも入っていない団体がたくさんいらっしゃるということなのですが、そういう団体に、アンケートを申し込むことはできるのですか。素人が考えると、結局団体と言いつつ2、3人が活動していると、さっき規模といわれましたけど、という場合もあるし、最近個人情報などの問題で、結構連絡なども難しいので、より多くの団体を把握するというのはとても必要かと思うのですが、現実問題動くときに、なかなかそれは、難しいのではないのか。よほど向こうから、文化協会に行っているいろいろな連絡されているような団体であれば確かに可能かもしれませんが、所属もされていない、把握もされていないような団体への声かけというのが自分にとっては想像が出来ない感じではあります。

松田委員：アンケート実施の必要性は皆さん必要ということで認識されていると思えますし、またその前提にもいろいろ発言をさせていただいているかと思うのですが、おっしゃられるように団体を我々この会で把握してないわけです。ですから実施前には一度リストアップして、ここで、全体を把握して、それからアンケート依頼も事務局に一方的にお任せするというのではなくて、ここで確認をした上で実施されたほうがいいのかと思えます。そういうことで、ぜひおっしゃるように、団体がどれくらいあるか把握する必要があるかと思えます。ここで全部知っておられる方はどなたもおられないと思えます。わからないところもありますから。そういうことでぜひ、全体を把握するようにお願いしたいと思えます。

都甲会長：ありがとうございます。全体をまずできるだけ把握する。それから次にどこまでの範囲を対象とするかとかという選定、その選定基準の問題も今後出てこようかと思えますけど、それに何か一つありそうです。それに関係して何かありますでしょうか。まず把握をするとなるとこれは事務局のほうに情報を集約するような形になるのでしょうか。

事務局：事務局からなのですが、実はここは本当に考えあぐねておりまして、団体の把握が正直我々も出来ておりません。平たく言いますと、我々は文化協会との付き合いもありますのでそこで100団体近くというのは把握できるのですが、あと、平川さんがおられるところのつながり広場もあれば、社会福祉協議会もありますし、松田さんがおられるように特にどこに属するというわけではなくて単独でおられるのですが、我々も知っているという団体もありますので、委員の皆様方がたくさんいろんなことをご存じだろうということで、そういった意見も出していただいて、それを集約させていただきたいという気持ちも正直ありましたので、その辺の情報をまずいただけないかと。我々として今あるわかっている分だけを出せばよかったのですが、ちょっとご用意出来ておりませんので、そういった方法でやりたいというふうに思っております。文化ということなので、角度が違ったりするかもしれませんが、例えば社協でも、谷口さんがされているような部分もありますし、ではそれは文化団体ではないのかって言われると、福祉の団体だけでも文化ではないかという話もあると思うので、そういった意味で範囲も決めていかないといけませんし、久池井先生がおっしゃったように、例えば100人で活動されているところ、2人で活動されているところ、ひいては例えば児童館でバンド組んでいますという高校生まで調査するのかという話になってしまうので、そういったところの線引きも、おっしゃるように決めていただけないかと。丸投げするわけではないのですが、そういったご意見いただいて、我々で調整させていただければというふうに考えております。

都甲会長：そうすると一旦各委員がご協力の上、情報を事務局のほうに一旦集約をするということでもよろしいですか。そのリスト等を見ながら、次にどういうふうを選定していくのか、範囲をどういうふうに決めていくのか、というその段階になるかと思えます。いかがでしょうか。

森部委員：私もそうだと思います。ただ事務局に丸投げするわけではなく、まずは各審議委員にアンケートというか、ご存じの団体を拾い上げていただくということが一つ団体を把握する上で大事なことかと思えます。ご出席の皆さん、いろんな団体をご存じだと思いますので、この団体はどうか、というようなところがあっても、出していただいて、出てきた中で整理をすればいいのではないかと思いますので、事務局のほうで各委員にそういうアンケートなり調査票を、出していただいて調査を進めていただければいいのではないかと思います。

都甲会長：ありがとうございます。それでは各委員それぞれで把握されていらっしゃることを集約して、事務局でお願いすると。そういうことでよろしいですか。そうしましたら団体のアンケートを実施するという方向ではご了解していただいたということでもよろしいですか。そうするとどういった内容を聞くのかということはどういたしましょう。今日方針だけは何か決めたほうがよろしいですか。

事務局：もしご意見いただけましたら、次回の会議のときに、団体の集約した一覧表とあわせてアンケート案なども、つくれるかと思えますので、今日それらのご意見もいただけましたら次回の会議にてアンケート案として事務局で集約させていただければと考えております。

都甲会長：そうしましたらこれは聞いておきたいとか、これは絶対落とさないほうがいいのか、そういう内容に関する意見方針等あれば、皆さんいかがでしょうか。いずれにしてもコロナの関係は確実に聞きま

すか。

森部委員：前回取られた内容がわかっておればまずそれを、先ほど言った各委員さんをお願いする中に入れていただいて、新たに前回と変わった項目で、アンケート等としてぜひ取りたいという項目を出したらどうかと思います。特にこのコロナ禍の中で、新たに出てきた問題点などが、皆さん感じられると思いますので、そういった内容をプラスアルファで、アンケート内容をつくり上げていったらいいのかなと思います。

都甲会長：ありがとうございます。前回のアンケートの内容って今すぐわからないですよ。

事務局：すみません、本日は前回アンケート分の資料を持っておりません。ただ、事務局として言えるのは前回分プラス今おっしゃっていただいたような、コロナを加味してという基本路線があるというところありましたので、それで次回はご提示ができるかと思えます。

都甲会長：実際見てみないとちょっとわからないと思うのですが、これ外しでは困るとか、こういうのは絶対入れておこうというようなものが今段階あれば、ご意見いただければと思いますけども。

いかがでしょうか。

平川委員：市でされているアンケートは今持っているのを見たのですが、参加者の感想ですとか成果と課題とか、新しく取り組んだことも記入してくださいと書いてあるので、これ雛形としてはすごくいいと思います。

事務局：ちょっとアンケートの内容ではないのですが、アンケートを実施した後に、そのアンケート結果を踏まえて、より深くするために団体聞き取り、もちろん全団体は無理かと思うのですが、そのうちから何団体かピックアップさせていただいて、聞き取りを行おうと思っております。このアンケートを踏まえての聞き取りになるかと思えますので、その辺も加味して項目のご提案をいただければと考えております。

都甲会長：そのアンケートの細かい内容をどんどん言ったらちょっと難しいのではないかと思うのですが。

森部委員：今の意見をもとに、事務局のほうでたたき台をつくっていただいて、それを見ながら不足点あるいはこういった項目はぜひ入れたいというような内容を収集されたほうが、何も無い中でやろうとすると、難しいと感じます。

松田委員：アクションプランをスタートしたときのアンケートはぜひアンケート調査するときにはやはり対比できるようにしていく必要があると思いますので、簡単な前回の資料をこの会に出してほしいです。ですから次回までに途中で、前回のアンケートしたところや、それからそのリストをいただいた時点で、ここでいろいろな意見を出すのもいいですけど、文書でも我々も出させてもらいたいと思いますけどいかがでしょうか。細かい文書ではなくて、簡単に。どういう項目入れたらいいとか、どういう団体がありますとか。団体は我々も出しますので、それも文書で簡単に書いて出せるように、一度そちらからリストいただけてませんか。ということで、今日意見を出し合っていていいですけど、後日また、出すということで、そうさせていただきたいと思えます。

事務局：ありがとうございます。

実は今日はアンケートをとる是非についてというところでお話をいただければと思っていたのですが、ただその中でも、我々もご提示するために、これはというのがあれば教えていただきたいという内容ではあったのですが。例えばこれから多文化共生などがありますので、交流がありますかという新しい項目があ

と思うのですが、そういったことですか、例えばコロナで大変苦勞したことは何ですかとか、そういったものが絶対必要なんじゃないかなと我々思っているのですが、そういったご意見を今回はいただければ、次回に生かせるのではないかと考えておまして。段取りが悪くて申し訳ございませんが、そういうお願いでございます。

事務局：前回のアンケートの内容について回答させていただきます。まず、団体の世代別、男女別の構成、それから、こちら30年度に実施したアンケートになるのですが、「平成26年度から29年度の間、貴団体が実施された文化芸術関連イベントについて調査票にてご回答ください」ということで、調査票の中でイベント名や事業概要、経費財源、それから成果課題等をお伺いしております。あわせて、前回は回答いただいた団体については、当初平成23年度時のアンケートも同封させていただきまして、前回のアンケートをごらんいただいて、当時と比較して古賀市の文化芸術分野で改善出来た点、新たに改善が必要な点、及びその他お気づきの点がございましたら教えてくださいという形でそれぞれ自由筆記でちょうだいしております。調査の内容としては以上となります。

都甲会長：今日の段階ではまず団体アンケートは実施をするというところを決めましたということです。それに伴って団体のリスト、掘り起こしについては委員の皆様ご協力のもと、事務局で集約をするということではよろしいですね。先ほど事務局からありましたけれども、アンケートとこれをもとに幾つかの団体に、聞き取りのインタビュー調査をするというお話がありました。だからそれも実施するということですね。そしてアンケートの中身については、今、口頭でしたので、次回までに一旦郵送か何かで、各委員さんに送っていただいて、それを見て、各委員さん気づいた点、足した方がいいことなどを検討して、それを次回の会議で議論すると、そういう段取りになろうかと思えます。

久池井委員：この調査もちろん初めてする調査ではないわけです。振興計画に基づいてする調査ですから。前回答えたことから、どんなふうに進んでいったのか、どういうふうなことが改善出来たのか、また残された期間でこんなことをしようかという構想があると思うのです。それが無いと同じような調査が2回あったということになろうかと思えますので、そのためにはやっぱりアンケートをとる意義、そこはやはり大事にしておかなくてはいけないのではないかと思います。というのは、今回のコロナで、これもやれなかった、これはなかなか難しかった、というような結論が出てしまうと、本来目的として持っていた、ここまで達成したいというところが、ちょっとぼやけてくるのではないかと思います。だから出来なかったことは出来なかったことであり、今工夫されていることが工夫されていることであり、しかしこの間、こういったところが、宝としてきちんと根づいてきたとか、というところも、見つけられるようなアンケートであってほしいと思います。だからこのアンケートのとり方が非常に大事だということ、もう一つは、この場合でもですね、前のアンケートの中身はどうだったかというところから始まっていますから、団体からすれば、以前書いたそのアンケートの中身、これがきちんと認識されているかどうかはわからないと思うのです。やはりそれが分かるような形で、答えてもらわないといけないのではないかと思います。

都甲会長：ありがとうございます。ではアンケートの中身等については次回のときに審議をするということ、そういう意義も含めて確認をしながら行っていくということではよろしいですか。実際大学でも調査計画などは1か月間ぐらい本当にじっくりかかるのです、過去の経緯などを見ながら。だからやはりそういうアンケート計画、調査計画をしっかりとやる必要があるかと思っています。そうしましたら今の資料2の団体がおこすというところについてはよろしいですか。では次に「行政がおこす」というところについて、今あるものとしては文化事業調査がありますということで。今後要望で、どうされるのかというご意見が

あればということですが、それに関して補足、事務局から何かありますか、こういう意見が欲しいとか。
事務局：事務局としては今現在こちらの文化芸術調査は毎年1年に一度報告書のほうを出していただきまして、調査当時から、全ての事業数の推移を確認できる表を付けて毎年お出ししているような形ですが、これと加えて、逆に皆様のほうから、この調査以外にもこういうものがあつたらいいのではないかと、そういったご意見をいただけたらと考えております。

谷口委員：市の報告書というのは同じものをまた出そうかという考えですか。この内容を大分変えていただいて、メディアに対する何とかなどいろいろ変更されたのですが、今回また取られるのは、こういう同じ形式を考えられていますか。

事務局：新たに取るというよりは、これまで取ってきた全てのものが資料にそのままなるかと思っております。市の、これまで毎年取っている文化事業調査、これが「行政がおこす」という項目で資料として使えるのではないかと考えております。事務局では新たにということでは今のところは考えておりませんので、逆に皆様から、この調査以外にこういう情報がないのではないかとということで必要なことがあればご指摘いただければと考えております。

谷口委員：感染症というのは、パンデミックという形でこれが収まったら、世界中でどこかでまた広がってという可能性があると思うのです。こちらの事業計画で団体などにはちゃんとコロナがどうなったということは盛り込んでいただけるようにはなつたけど、かなりの事業で、今年なくなつたりしたものがあります。市の事業で文化的なものが。それに対してどういう対処をしたとか、そういうことをアンケートで知りたいと思います。これが過ぎて、今大惨事になるとか言っていましたけれど、こういう59がなくなつた、また20とかで出てきた、そういう状態というのは必ず、考えていなければいけない時代になってくるので、こちら側のアンケートのところにも団体と一緒に今回の分でどこをこういう理由で中止にしたとか、延期にしたとか、そういうものとか、それにかかわって新しくこういうことをつくつたなど、そういうものもちょっと入れた方がいいのではないかと思います。

事務局：その御意見を大切にしたいと思います。恐らくコロナの関係につきましては把握が出来ておると思いますので、それはご報告することは可能だと思います。以上です。

都甲会長：ありがとうございます。コロナ関連について項目を追加したらどうかということです。

久池井委員：市の事業報告書ですが、今度出す分で非常に心配するのは、コロナでいろいろな行事が出来なかったのです。場合によっては「出来ませんでした。」「今回は延期しました。」「今回は中止いたしました」と、そういう形ですと述べられると、もうスカスカの報告書になるのです。そうであつてはならないだろうと思います。来年度はこんな工夫をしたい、とかいろいろなことを考えていらつしゃつたわけですから、こういうことをしようと思つたけども、こういったことで出来なかったけれども、こういう対応をしたとか、また来年度に向けてこんなことを検討しているとか、中身がある報告書にしておかないと、軒並み出来ませんでした一色だと、受け取つたときに、ほとんど中身がないと言いますか、あつたにしても規模を縮小してやりました、だけだと、やはり文化の値打ちがないと思うのです。出来ないことは出来ないのですけれども、今出来ないうちにやはり考えることはされていると思うのです。または出来ないときにいろいろな難しさというものは拾い出してあると思うのです。そこはやはりきちんと記録として残しておかないといけなと思いますので、この報告書がさーっと通り一遍の出来ませんでした、の一色にならないような工夫だけはぜひ、各それぞれの部署にお願いをしたいと思います。

都甲会長：ありがとうございます。

松田委員：今の意見に大賛成です。重複しますけれども、本当にコロナ禍で出来なかった、中止した理由にしてあげないように、できるだけその中で工夫されたことだとか、それからコロナ禍に学んだこともあると思いますので、そういうものをぜひ将来に生かせるように、コロナに限らずいろいろな災害がこれからも起こることもあるかと思っておりますので、そういうことを想定しながら、前向きなアンケートもつくれるような項目に加えていただければと思います。よろしくお願ひします。

都甲会長：ありがとうございます。

事務局：その辺も含めて考えていきたいと思ひます。例えば市としても危ないからやめるということだけではなく、一例を挙げますと、図書館でお話し会というのをやっているのですが、最初はボランティアの皆さんも、ちょっと怖いのでやめましょうという話だったのですが、工夫をして、今まで密集してやっていたものを、人を限定した上で、離れてできる方法などいろいろ考えたりなどしていただいております。そういったことも含めて、そういった工夫されましたかというような問いはしたいと思っておりますので、それはよろしくお願ひしたいと思ひます。

都甲会長：他いかがでしょうか。例えば審議委員が例えばどこかの行政の部署などにお聞きするヒアリングなどできるものでしょうか。

事務局：ご依頼があれば、こちらで出席の依頼をかけまして、ヒアリングに立ち会ってほしいということで呼ぶことは可能だと思ひます。

都甲会長：はい。今すぐ、なかなか思ひつかないかと思ひますけれども、そういうことも可能なようなので、必要な部署等あれば、例えば社会福祉などいろいろあるかと思ひますので、そういうところも踏まえて検討していただいた方がいいかなと思ひます、各委員さん。そうしましたら同じ資料2の「市民がおこす」という1番上の項目なのですが、これいかがでしょうかと、皆さんちょっとお伺ひ、審議したいところなのですが、アクションプランを見ても、呼びかけなのです。何々をつくろうという。例えば、環境づくりですと「文化芸術をいかした生活環境をつくろう」ですとか、それから宝を見つければいいところでも「参加しよう」とか、「見つけよう」というそういう呼びかけになっていて、達成というものにはなかなかなじみそうにはないのですが、これ、いかがでしょうか。仮に聞いたとしても曖昧になる可能性もありますし、ただ、何らかの形で市民に充実したとか、こういう宝を発見したとか、何かそういうのもあってもいいのではないかと思ひますけれども。これもどういう対象でどういう聞き方するかというのがまた非常に難しいかと思ひますけれど。先ほど団体との裏腹ではないですけれども、参加したときにどういう発見したかとか、そういう活動に対して参加した方に聞くとか、いろいろな考え方もあるかと思ひますけれども。この市民がおこすというところ、いかがなものでしょうか。

平川委員：先ほど谷口さんが言われたと思ひますけれども、参加するというのはすごく把握はしやすいと思ひます。いろいろな団体のイベントに参加とか、市役所のイベントに参加とか。数と言っではいけないのですが、参加されたときに必ずちょっと聞き取りをしたり、アンケートをとったり多分団体はされるのです。それでどういうふうか、思っであるかとかいうのは聞き取りやすいですし、多分団体としては、最近なんだかいろいろな人が興味を持ってきているとか、何か参加者が増えているなどということ、個人のそういう文化に対しての気持ちがおこっているなどというのは分かるのではないだろうかという気はします。

都甲会長：ありがとうございます。

谷口委員：団体のアンケートのときに、大きいところはイベントごとに、今さっき言われたみたいにアン

ケートをとっているのですけれども、うちも年代別とか、行政区別とか、あと男女別、大きいイベントすると、古賀市外から来ています、古賀市の割合どれぐらいとか、毎回ずっととっているのです。感想はどうですかとか、前回に比べてどうですかとか、初めて知りましたかとか、何回来ていますかとか。そういうのはうちのオーケストラ自体はずっと毎年イベントごとにとっているのです。

今年は2回ともちょっとやっていないので、取れていないけれど。そういう団体のところでもイベントのときのアンケート取られていけば、ご提供願えますかということで提供していただけたら、意外とこちらの分が埋められるかもしれないです。提案です。

都甲会長：ありがとうございます。

山本委員：今谷口さんが言われたとおり、それぞれの団体でのアンケートはとっているのですけれども、その団体に対しての、見にくられた方の気持ちでしか多分わからないと思うので、普通の見にくられていない市民の方の気持ちをどう理解したらいいのかなということが。私は1番それが問題だと思うのですけれども。実際にこのアクションプランを市民が知ってあるかどうかから。今まで市民に対してのアンケートはないのですよね。ですので、市とかが事業されるときに無作為で調査を、アンケートを出していかれますけれども、そんな感じで何か全体に1回ぐらい、何かアンケート調査をしたほうがいいのではないかとはい思いますけれど。

都甲会長：ありがとうございます。過去市民の方に何かアンケート調査などは実施されましたか。

事務局：全体のアンケートということなのですが、マスタープランいわゆる総合計画をつくるときに文化という項目ではないので、例えばコンサートに行きますかとか、自分で音楽を楽しみますかとか、絵を描きますかなどというような、直接的なことはないのですが、そこの重要性についてどう思いますかという程度のものであればあるのですが、これ単体で聞いていることはまずないと思います。正直言いますそのアンケートが果たしてできるかどうかという予算的なものもありますので難しいところはあります。できれば、本当に山本委員がおっしゃるように、一般の方の全く無作為の中で、どれぐらいの方が文化、文化の定義にもよると思うのですが、興味をお持ちになっているのかとか、どういったことに興味があるのかということが把握できればと思うのですが、今のところプランがないという状況ですので、そういったアドバイスもいただけるとありがたいと思っております。

都甲会長：山本委員、何かアイデアありますか。

山本委員：多分それはあったほうが良いと思いますし、実際にアクションプランが市民に行き届いているかということが、私ちょっと疑問に思っているところもありますし、文化事業に来られる方はほとんど同じようなメンバーの方が来られる可能性が多いので、環境などで無作為に突然アンケートが市のほうから送ってこられて、これに対してあなたはどう思いますかというのが、ちょっとうちの息子にも聞いたことがあるので、そういう無作為にできる分が多分、予算的にお金がかかると思うのですけど、1回何かそれをしていただいたほうが、古賀市全員、市民がどういう文化事業を望んでいらっしゃるのか、文化に対してどういうことを考えてられるのかということが少しは分かるのではないかとと思うのですけれど。

事務局：まさにおっしゃるとおりだと思いますので、持ち帰って検討をさせていただければと思います。

都甲会長：よろしくをお願いします。

久池井委員：今のお話確かにそうなのです。ただ、前にとったことがなくて、今回振興計画が終わりぐらいいになって、今どんなことをしてありますかというのは、何か唐突かなという感じもします。ただ、大事なこととは思っています。この後これで終わりではなくて第2期の計画ありますから。それがそのまま第2

期のベースにはなると思うのです。ただ今回の出し方は、今のこの時点でどのようなこと、このアクションプランというのがあったんですけども、されていますかみたいな形になるとちょっと答えにくいかなと。それよりも、こういうふうな市民の姿が見えるようになりまして、こんなふうな活動がっていますというような、そういう口コミで何か、私たち委員もそうですが、団体の方で見かけるようになりましてというそういう情報を集めて、そういう姿を出していくといたしますか。それがやはりいいのではないかと思います。確かに大事なことなのですが、今から、大規模にやったときに、ちょっと唐突感があるのではないかと感じました。

都甲会長：ありがとうございます。持ち帰りということもあろうかと思えますけれど、今回のプレス発表した船原古墳の杏葉、展示会が、14日からでしたか。今やってらっしゃる。そうするとここの「宝を再認識した」のところなど言えそうな気がしたのです。だから、そこで何らかのアンケートもとられていると思うのですが、例えばアクションプランご存じですかというようなことを一言、マルバツぐらいの予備調査的なものを行えるといいのではないかと、せっかくなので思いました。

事務局：大変素晴らしいご意見ありがとうございます。実は14日から開催しているのですが、いまだかつてないほど人が来ていただいております、うれしい想定外ということで、てんやわんやしております、正直そこまでの余裕がないというのが現状でございます。ただ、今一つ思いますのは、昨年度まつり古賀でまだ市史編さん準備係がありました頃に、市史編さんについてどう思いますかというアンケートをとったことがございまして、そういったことを考えると、我々これからアウトリーチといたしますか、まつり古賀などに出張歴史資料館のような事業を行って、その際に聞くことがもしかしたらできるのではないかと思いますので、そういった手法も取り入れながら、できるだけ、無作為の市民の方から、ご存じですかという程度であれば、大丈夫ではないかと思えますので、ちょっとそれも検討させていただければと思います。

都甲会長：ではよろしく願いいたします。それに関連して、委員の皆さん、何かありますでしょうか。そうすると、この資料2の方針が今各項目、全部議論が終わったというところで、事務局に議事をお返しします。

5 その他の事項

6 閉会のことば